

2005防災教育チャレンジプラン

「少年防災ボランティア養成プロジェクト」

神奈川災害ボランティアステーション

発表者：神奈川災害ボランティアステーション 鈴木幸一

「神奈川災害ボランティアステーション」は、平成3年6月3日に発生した、長崎県雲仙普賢岳の噴火災害に際しボーイスカウトの精神と技術を活かそうと、神奈川県民の善意を携えて4回現地入りし、地元のボーイスカウトや、「島原ボランティア協会」の皆さんと協力して、「災害ボランティア活動」を展開したことから始まりました。

噴火災害の発生後、市内は、警察や消防、自衛隊などの大型特殊車両が粉塵を巻き上げながら走行するなど物々しい雰囲気の中で市民は不安な毎日を送っていましたが、遠来のボーイスカウトの出現に市民は安堵しました。



長崎県雲仙普賢岳噴火災害に際し、全国から送られた「救援物資」を家族毎への分配作業の手伝いをする神奈川からのボーイスカウト（平成3年8月）

災害時に活躍した少年達の記録



**「長崎県雲仙普賢岳噴火災害支援活動 4回目」
老人ホームへ救援物資を運び込む神奈川のスカウト（平成4年3月）**



**新潟豪雨水害で三条市に設けられた、「ボランティアセンター」にて、
ボランティアとして清掃活動に汗を流すボーイスカウト（平成5年8月）**

災害訓練に活躍した少年達の記録



**区役所災害対策本部の要請を受けて、
防災訓練の参加者に「災害情報」を伝えるスカウト（平成14年3月）**



**6千人もの尊い人命の犠牲を強いた、「阪神淡路大震災」では、5日目には
市民の善意を携え兵庫県警パトカーの先導で神戸市役所に到着（平成7年1月）**

平成4年10月発生した、新潟中越地震では、被災から4日目の朝、120人が避難する、小千谷市立吉谷保育園避難所に入り、約2週間、仲間のボーイスカウトと協力して、大型テントによる、「非常炊出所」を設け、被災地の子供達のお力添えを頂きながら、ライフラインの停止したなか、横浜から持ち込んだ「米百キロ」と「非常用炊出袋」を活用して、皆様に温かい食事を提供して喜ばれました。

取材に訪れた、「神奈川新聞」の記者から、「新潟での体験は、神奈川に戻ってから役に立つことはあるか。」と問われたことに大きく心が動いた。危惧される「首都圏直下型地震」が発生すれば中越地震の百倍の被害になると想定されています。

そこで子供達の役割が重要となる。子供達に何が出来るかを考えてみました。

- 学校で使っている「地図帳」か「道路地図」があれば・・・「道案内」
- 倒壊した建物に閉じ込められていたり、けが人を見つけたら・・・「情報の伝達」
- ライフラインが止まって炊事が出来ないとき、「非常用炊出袋」で・・・「炊飯」
- 飲料水や救援物資を、お年寄り世帯や避難所に・・・「物資運搬」
- 負傷者多数！洗濯したシーツをハサミ一つで・・・「簡易包帯づくり」
- 集団生活で清潔な環境は、みんなの健康を守るポイント・・・「避難所の清掃」

「防災教育チャレンジプラン」君たちにも、出来るかな？ やってみよう！



「少年防災ボランティア養成プロジェクト」は、神奈川県や新潟中越地震で大きな被害を受けた新潟県など15会場で開催されました。



「少年防災ボランティア養成プロジェクト」に参加された皆さんです。

小学校高学年	「少年防災ボランティア」	328人
中学生以上	「少年防災ボランティア・インストラクター」	31人
成人指導者	「少年防災ボランティア・コーディネーター」	108人

(2001年1月31日まで・15会場)

「少年防災ボランティア・証明カード」を胸に、参加した皆さんの感想です。



- 何か、あったときはお手伝いしたいです。
- 私は、鈴木さんのお話を聞いて、大きくなったら道案内など人助けをしたいと思います。
- わかりやすく話をしてくれてうれしかった。私も道案内や救助活動で頑張りたいです。
- 僕は困っている人を助けたいと思いました。大人になっても聞いたことを、いかしていきたいと思います。
- 大きくなったらボランティアになりたいと思いました。いろんな人を助けたいです。また参加したいです。
- 自分の知らない人でもホータイを作って人を助ける。自分たちが出来ることをする。
- 少しはいくつしたけど、子供でもこんなことが出来るんだなーと思いました。実際に困っている人がいたら助けてあげたいです。
- 僕たちの作った包帯で一人の命でも助かればうれしい。





「少年防災ボランティア養成プロジェクト」の成果

- 「防災」をキーワードに、参加した少年達に、大きな社会性が育まれた。
- 災害発生時に、困っている人たちのお役に立ちたいという自覚は、青少年のスターとしたばかりの人生に大きな影響を与え、少年期に陥りがちな、「いじめや犯罪」に走ることを防止できると考えられる。
- 参加した少年達の真摯な取り組みは、災害に無防備な大人達に、大きな警鐘を鳴らしていると感じたのは、スタッフ全員の偽らぬ心と思えた。
- 少年達には、「災害」への備えが確実に育っていた。

将来、全ての小学生が、「少年防災ボランティア養成プロジェクト」にチャレンジするシステムが構築できれば、「防災」ばかりでなく、「いじめや犯罪」が減少するなど、社会は変わると思います。



「少年防災ボランティア養成プロジェクト」は、NHK国際放送局を通じて、訓練の様子が、全世界に紹介されました。